

2020年度 埼玉医科大学短期大学

推薦入学試験

小 論 文 (看護学科)

次の文章を読み、内容を150字以内に要約しなさい。また、この文章に対するあなたの意見を300字以内で述べなさい。

光明皇后（こうみょうこうごう）は聖武天皇の皇后で、奈良時代の女性文化人の第一人者であり、仏教信仰に基づく発意により、施薬院及び悲田院並びにから風呂などの諸施設を設けた伝説として広く知られている。施薬院は病院のような場所であり、悲田院は貧しい人に施しをする施設として皇后直属の「皇后宮職（こうごうぐうしき）」を管轄官庁として社会福祉事業を推し進めたのであった。ならば、仏教信仰に基づき施薬院および悲田院他を設けた光明皇后は、日本の看護の創始者であったと言い切れるのだろうか。（中略）

安宿部姫（あすかべひめ）は、716年の16歳の時に両親の敷いたレールに従い、首王子（おびとのみこ）の妃となった。首王子との間に阿部内親王（718年）を出産した。724年に夫の首王子が即位すると夫人となり、727年に基親王を出産した。親王はすぐに皇太子になったものの728年に病死した。729年8月には臣下として異例の立后をはたし、729年9月には皇后宮職設置に伴い、光明子の執政・社会福祉事業推進の拠点となった。皇后宮の後に法華寺（国分尼寺）が建てられ、本尊の十一面観音は皇后をモデルにしたともいわれている。730年になると奈良・興福寺に一般民衆に薬を与える施薬院を置き、老人や孤児を保護し貧窮者の救済にあたった。悲田院もこのころに設置したといわれ、仏教信仰を示す伝説としてよく知られている。皇后直属の「皇后宮職」をその管轄官庁として社会福祉事業を進めた。

仏教信仰として最も広く知られた伝承となっているのは、現在の法華寺に残る「から風呂」である。説明板には、「この浴室は古くから『から風呂』とよばれ法華寺本願光明皇后が難病者たちに入浴の恵みをたれ給うところであります。傍らの井戸は常に清らかな水をたたえこの浴室の伝統は井戸と共に古い由緒を伝えていきます。浴室の内部は二部屋になっていて両方共にむし風呂になっています。近年迄、実際に利用されていました。唐破風をつけた内部の古い様式や敷瓦の遺構には昔の面影が偲ばれます。平成十五年七月に半解体修理が完成いたしました」と記されている。

この「から風呂」について、平安時代には、「東大寺、法華寺を建立し終えた光明皇后が天の声から法華寺に湯屋を作るように言われ、湯屋に来る人々の垢を流そうと誓うが、みすばらしい格好の人がやってきたので躊躇していると、『誓いを破ることになるぞ』といわれたので、流し終えた後に『こんなことは誰にも言ってはダメよ』というのと、『阿閃（あしゅく）如来が垢を流してもらいに来たことを誰にも言ってはならぬ』と言って光り輝き飛び去って行った。」と伝承された。

更に後の時代になると、「光明皇后は、神の慈悲を実践するには千人の体を洗ってやりたいと願い、浴場を立てられたといわれている。ここで千人目に、全身に膿を持ったハンセン病の患者が来て、光明皇后に『体中の膿を出してほしいと』申し出た。皇后が口で膿を吸い出していると、その体は黄金色に輝き阿閃如来となって飛び去った。」という内容で伝承されているのである。

これらに加えて光明皇后は、都大路に並木を植えるときも、貧しい人たちの非常食になればと、モモとナシの木を植えさせたとも伝えられている。